

乙御前御消息

御書新版 1689頁 13行目〜16行目
御書全集 1220頁 9行目〜12行目

されば、妙楽大師のたまわく「必ず心の固
きに仮つて、神の守り則ち強し」等云々。人
の心かたければ、神のまぼり必ずつよしとこ
そ候え。

これは御ために申すぞ。古の御心ざし申す
ばかりなし。それよりも今一重強盛に御志あ
るべし。その時はいよいよ十羅刹女の御まぼ
りもつよかるべしとおぼすべし。

語句

「必ず心の固きに仮つて……」
妙楽大師の『止観輔行伝弘決』巻8の文。

通解

（法華経を信ずる者は諸天善神に守られ
る）それゆえ、妙楽大師は「心が堅固で
あれば、必ず神の守りも強いのである」
と言われている。その人の信心が固けれ
ば、諸天善神の守りは必ず強い、という
ことです。

これは、あなたのために申し上げるの
である。これまでの、あなたの信心の深
さは、言い表すことができない。しかし、
それよりもなお一層の強盛な信心に励ん
でいきなさい。その時は、ますます十羅
刹女の守護も強くなると思いなさい。

十羅刹女

法華経陀羅尼品第26で、法華経を受持する者を守ること
を誓った10人の女性の羅刹。羅刹はサンスクリットのラー
クシヤサの音写で、人の血肉を食べる悪鬼とされるが、
毘沙門天王の配下として北方を守護するともいわれる。